今月の読み物

「見たり、聞いたり、探ったり」No.283

通算 No.434

青　木　行　雄

「明治天皇祭」（明治神宮）に参加して、
2023年（令和５）７月30日（111回目）

明治天皇の肖像画、写真ではない

令和５年（2023）７月30日（日）、午前8:00時、明治神宮の森も、連日35度を超える暑い日が続いている中、大木のある日影が多くさすがに町中とはちょっと違う雰囲気がただよっていた。

明治天皇は、御年（おんとし）数え16歳で第百二十二代の天皇に即位され、明治維新の大業を成し遂げられて近代日本の礎を築かれた。

７月30日は明治45年（1912）に61歳で崩御された明治天皇の御命日にあたる日である。その御命日をお祭として、回を重ね、今年で111回目になった。コロナ禍で三年程一般会員参加は見送られたがこの令和５年は平常に帰り、参加することが出来た。大変ありがたく参上参拝がかなったという事である。

幕末・維新を経て世界の列強に伍する近代国家へと大きく躍進した明治の御代（みよ）は、国家の存亡と国内の改革にともなう難問が山積する中、明治天皇の御親政のもと、和魂洋才（わこんようさい）を旨とした国民との惜しみない努力により発展をみてきた。かつての日本人が美徳としていた高潔で勤勉で道義心豊かな精神が、日本民族の活力となり、その強い志が時代を動かしたのである。

祭典で奉奏（ほうそう）される「明治神宮大和舞（やまとまい）」は、神宮の数ある祭典の中で唯一、神職が奉仕する舞である。明治天皇は御生涯で約十万首もの和歌を詠まれたというが、その中の代表的な御製に、作曲・振付けをし

明治神宮本殿前の風景

式典が始まる直前、緊張の瞬間

たものである。

この和歌

「あさみどり澄みわたりたる

大空の廣きをおのが心ともがな」

が、この祭典の神前で御披露された。

「祭典式次第」　令和５年７月30日

1、報　鼓

2、宮司一拝

3、開　扉

4、献　饌

5、祝詞奏上

6、「明治神宮大和舞」奉奏

7、国歌斉唱

8、玉串拝礼

9、撤　饌

10、閉　扉

11、宮司一拝

12、報　鼓

場内で奉納の果実

天皇祭受付場所、直会もこの奥で行われた

明治神宮の森の中に点在する建物

※①の「報鼓」は場内にある大太鼓（直径150㎝）の高音から始まり連音となり、祭典は開式となる。300人程の招待参加者が緊張する瞬間であった。

②の「宮司一拝」は九條宮司を始め30人程の神職、白糸の神服をまとい入場、神前に整列、普段では見られない感動の光景であった。

③の「開扉」は神職代表が開式にあたり神前の扉を開ける神事。

④の「献饌」「神饌（しんせん）」ともいい、神さまにお供えする飲食物のことを、献饌・神饌とも云う。

神宮の木造大鳥居、本殿へ参拝者が移動中

広い宮内の砂利道を35度の暑い中移動する招待参拝者

直会の会場。朝本殿に移動前、待機中の参拝者達。まだ早かったので少ない

移動中に明治天皇の「御製」が飾られていた

神社の祭典には大祭、中祭、小祭の別があるというが、明治神宮の祭典では、雅楽の奏楽のうちに心をこめた神饌を御前に、それぞれ塗り高坏（たかつき）に盛ってお供えする。

和稲（にぎしね）、荒稲（あらしね）、酒（さけ）、餅（もち）、海魚（うみのさかな）、川魚（かわのさかな）、野鳥（ののとり）、水鳥（みずのとり）、海菜（かいさい）、野菜（やさい）、果実（くだもの）、菓子（かし）、塩水（えんすい）等。

このように海の幸（さち）山の幸の数々を感謝の誠をつくして、お供えいたしお祭りを奉仕している。

そのようなことから、ご祈願祭や結婚式などに、その一部をおさがりとして皆様にお頒かちいたしているという。

⑤「祝詞奏上」、神職が祭の儀式に唱えて祝福することば。

⑥「明治神宮大和舞」奉奏

前記の通り神職がこの舞を披露した。

⑦「国歌斉唱」、コロナ禍ではあったが今年は全員低音で歌うことが出来た。

⑧「玉串拝礼」、崇敬会20人程代表して玉串を神前にささげた。

⑨「撤饌」、大神さまにお供え物をおさげする神事、献饌も撤饌もかなりの時間がかかった。

⑩「閉扉」は大神様神前の扉を閉じる神事。

⑪「宮司一拝」、宮司を始め神職一同、神前より、退場する神事。

⑫「報鼓」、①の報鼓と同じく、これで神事は終了とのおふれに大太鼓をならした。

約１時間程の時を要した。

明治天皇の生誕

父孝明天皇の第二皇子。生母は権大納言・中山忠能の娘・中山慶子。1852年（嘉永５）９月22日に京都石薬師の中山邸にて生誕、８日目の９月29日に父・孝明天皇から祐宮（さちのみや）という幼名を賜る。1856年（安政３）に宮中に移るまで中山邸で育った。

明治時代に明治天皇の波瀾万丈だった生きざまにちょっとふれて見る。

明治天皇は1852年（嘉永５年（９月22日））新暦11月３日、孝明天皇の皇子として御誕生された。アメリ

カのペリー提督が軍艦四隻をひきいて浦賀に来航した前年のことであった。当時は欧米の列強諸国が競って東洋に植民地を求めて進出した時代で、日本も一歩その対策を誤れば、たちまち欧米諸国に蚕食（さんしょく）されるという危険をはらんでいた時代であった。

一方、日本の国内情勢は、徳川300年にわたる封建制度が破綻をきたし、皇室を中心とする新体制を望む声が高まって国論が沸騰し内憂外患こもごも至るという。まさに狂乱怒濤、物情騒然たる有様で、このような情勢の中で、孝明天皇が崩御され、明治天皇は1867年（慶応３）１月９日、御年わずか16歳で皇位をお継ぎになったのである。ほどなく将軍徳川慶喜の大政奉還にともなって、同年12月王政復古の大号令を発せられ、翌４年（明治元年）３月14日、天皇は紫宸殿に天神地祇（てんしんちぎ＝天地の神々のこと）をお祭りになって、五箇条の国是をお誓いになり（五箇条の御誓文）、施政の大方針を明らかにされた。そして同年９月には年号を明治と改められ、10月には東京遷都、12月御成婚、そして翌２年版籍奉還、４年廃藩置県、５年の学制領布その他鉄道、電信、電話の開通、太陽暦の採用など親政の施策が次々に進められた。

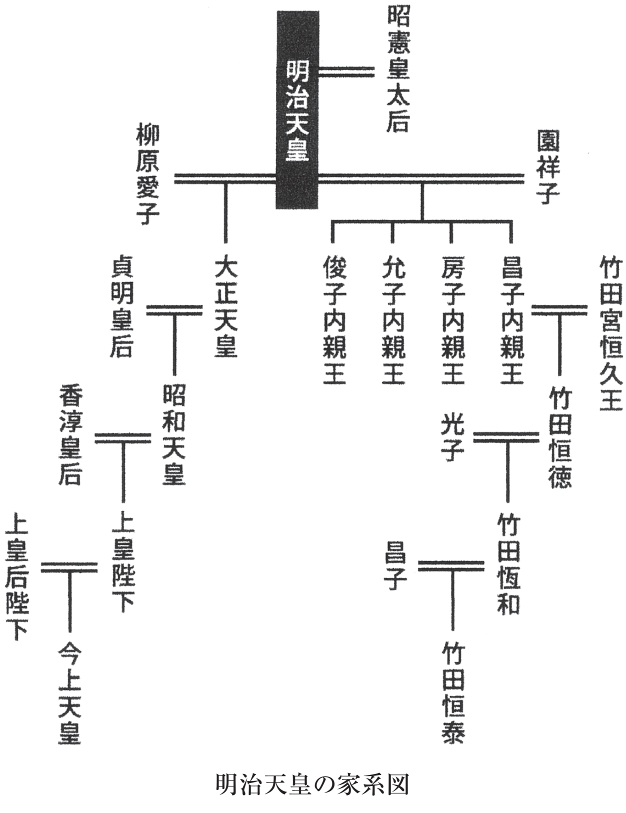
さらに明治22年には帝国憲法を発布せられ、翌23年には帝国議会の開設があり、また教育勅語も御下賜になった。こうして日清・日露の両戦役をへて国威は大いに宣揚され、我が国はわずか半世紀の間に立憲政治を確立し、産業の開発、国民教育の普及と文化の向上、国防の充実、諸外国との交流など近代国家への発展は目覚ましいものがあり、遂には東海の一小国から世界の列強の一つに数えられることになったのである。

しかしこの間、常に国民の先頭にお立ちになって、国利民福（こくりみんぷく＝国家の利益と人民の幸福）のためひたすらお尽くしあそばされた明治天皇の御心労は大変だったと推測されるが、日露戦争後はめっきり御年を召されたと伝えられている。明治45年（1912）７月30日、国民号泣の中に御年61歳をもって崩御されたのである。大正元年（1912）９月13日、東京青山（現在の神宮外苑のある場所）において御大葬が行われ、翌14日京都南郊の伏見桃山陵にお鎮まりになられた。

明治天皇の家系図

明治天皇と、その妻である昭憲皇太后には子に恵まれなかったが、明治天皇には５人の側室がおり、側室との間に15人の子が生まれている。このうち成人したのは、柳原愛子と園祥子が産んだ５人で、柳原愛子が産んだ皇子、嘉仁親王は大正天皇に即位し、現在の皇室につながっている。

一方、園祥子は８人の子を産み、皇女４人が成人した。この４人の皇女のひとり、昌子内親王（まさこないしんのう）の系譜には、日本オリンピック委員会の会長を務めた竹田恒和（たけだつねか



明治天皇の家系図

「大政奉還」(聖徳記念絵画館壁画)の一部。明治天皇16歳の時の出来事である

ず)氏や、その子で作家、憲法学者の竹田恒泰(たけだつねやす)氏がいる。

「憲法発布式」の様子。明治22年(聖徳記念絵画館壁画)

明治天皇の年表

明治天皇は14歳の若さで即位すると、急速に近代化する日本を強力なリーダーシップで牽引した。その在位期間は国内の政治体制や国際関係が大きく動いた激動の時代であった。明治天皇の生涯にはどんな出来事が時をきざんだのか年表をおって紹介したい。

西暦(和暦)	年齢	出来事
1852年(嘉永5年)	1歳	孝明天皇の第二皇子として誕生する。 生母は権大納言・中山忠能の娘・中山慶子。
1853年(嘉永6年)	2歳	米国のペリー提督が浦賀(現在の神奈川県横須賀市)に来航し、江戸幕府に開国を要求する。
1854年(嘉永7年)	3歳	江戸幕府が日米和親条約(にちべいわしんじょうやく)を締結。
1858年(安政5年)	7歳	江戸幕府の大老・井伊直弼(いいなおすけ)が朝廷の許しを得ず日米修好通商条約を締結。これに反発する勢力を井伊直弼が弾圧した「安政の大獄」(あんせいのたいごく)が起きる。
1860年(安政7年/万延元年)	9歳	親王宣下を受け、睦仁(むつひと)の名を賜る。 尊皇攘夷派の浪士が井伊直弼を暗殺した「桜田門外の変」(さくらだもんがいのへん)が起きる。
1862年(文久2年)	11歳	江戸幕府への不満が高まり、尊皇攘夷と討幕の動きが活発化。江戸幕府は朝廷の権威をもって幕藩体制を強化することを狙い、孝明天皇の妹・和宮と第14代将軍「徳川家茂」の婚姻を結ぶ。
1863年(文久3年)	12歳	急進的な攘夷派の長州藩(現在の山口県)が独断で外国船を砲撃。こうした動きには江戸幕府、朝廷、諸藩も賛同せず、孤立した長州藩が京都から追放される八月十八日の政変が起きる。
1864年(文久4年/元治元年)	13歳	長州藩は過激な攘夷活動を続け、幕府側の諸藩と武力衝突する「禁門の変」が起きる。江戸幕府が長州藩を処分するため出兵した第一次長州征伐(だいいちじちょうしゅうせいばつ)が勃発。
1866年(慶応2年)	15歳	長州藩は第一次長州征伐で江戸幕府に屈したものの処分を受け入れず、江戸幕府は第二次長州征伐を決行。薩長同盟を締結していた長州藩は薩摩藩(現在の鹿児島県)の支援を受けて事実上の勝利を収め、これを機に江戸幕府は求心力を失う。

1867年 （慶応３年）	16歳	父・孝明天皇の崩御に伴い、満14歳で践祚（せんそ:天皇の位を受け継ぐこと）。 江戸幕府が大政奉還（たいせいほうかん）を行い、政権を天皇に返上する。
1868年 （慶応４年／ 明治元年）	17歳	即位の礼を行い、明治天皇として即位したことを宣明。鳥羽・伏見の戦いで旧幕府軍が新政府軍に大敗。旧幕府が明け渡した江戸城（東京都千代田区）を皇居にし、江戸を東京と改称。
1869年 （明治２年）	18歳	版籍奉還を勅許（ちょっきょ：天皇の許可）。全国の藩が土地と人民を朝廷に返還する。
1871年 （明治４年）	20歳	廃藩置県を断行し、中央集権体制を強化。
1873年 （明治６年）	22歳	征韓論をめぐり明治政府内が紛糾。勅旨（ちょくし:天皇の命令）で西郷隆盛（さいごうたかもり）の朝鮮派遣を中止させる。
1877年 （明治10年）	26歳	西郷隆盛が明治政府に対して挙兵した西南戦争が始まる。西郷隆盛は敗退､武士の時代が終わる。
1881年 （明治14年）	30歳	国会開設の勅（みことのり:天皇の命令）を発し、帝国議会創設の時期を明示。
1882年 （明治15年）	31歳	軍人勅諭（ぐんじんちょくゆ）を発し、天皇が陸海軍の統帥権を保持することを示し、軍人の規律を定めた。
1885年 （明治18年）	34歳	議会創設に備えて内閣制度を制定。
1889年 （明治22年）	38歳	天皇を主権者とする大日本帝国憲法を公布。
1890年 （明治23年）	39歳	第１回衆議院議員総選挙を実施。この選挙で当選した議員からなる衆議院と、非公選の貴族院で構成された第１回帝国議会を開院。 教育勅語（きょういくちょくご）を発し、教育の基本方針を示す。
1894年 （明治27年）	43歳	日英通商航海条約を締結。イギリスとの不平等条約を改正。 清国に宣戦布告し、日清戦争開戦。
1895年 （明治28年）	44歳	日清講和条約（下関条約）調印。清から日本へ、台湾などの領土割譲と賠償金支払いが決まる。
1904年 （明治37年）	53歳	ロシアに宣戦布告し、日露戦争開戦。
1905年 （明治38年）	54歳	日露講和条約（ポーツマス条約）調印。朝鮮の支配権、中国・遼東半島、満州の租借権を獲得し、樺太南部を領土とする。
1910年 （明治43年）	59歳	韓国併合に関する条約調印。大韓帝国を植民地化する。
1911年 （明治44年）	60歳	日米通商航海条約改正調印。関税自主権を回復し､欧米各国との不平等条約の改正を完了させる。
1912年 （明治45年）	61歳	崩御。世界各国から追悼の意が寄せられる。

明治天皇を調べれば調べる程、偉大な功績と博学多才な天皇であられるが、波瀾万丈という熟語を地で背負われた天皇でもあった。そんな天皇にふさわしい明治神宮の広大な自然林（100年以上手入れなし）杜の中に明治天皇勇姿の面影を探ることが出来るような気がした。

令和５年９月18日　記

参考資料

明治神宮パンフ

明治天皇の一面／ホームメイト

宮内庁資料